

すすんで考え、学び合い思考を深める児童の育成  
～国語科の 話す・聞く を中心として～

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名

単元名「だれもが関わり合えるように」

【話す・聞く】「光村図書・上」

教材名「手と心で読む」

2 単元目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ・ 関心のあることなどから話題を決め、必要なことを調べて要点をメモすることができる。
- ・ 相手や目的に応じ、理由や事例などを挙げながら道筋を立て、話し方の工夫を考えて話すことができる。
- ・ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすることができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。	①調べる方法を選び、課題を解決するための情報を集め、メモをしている。 ②工夫して情報を整理している。 ③内容やまとまりを意識して、まとまりや組み立てが分かるように話している。 ④相手を見たり、大事な言葉や部分を強調したりするなど工夫して話している。 ⑤発表を聞き、気付いたことや質問したいことをメモに取ったり発言したりしている。	①文章を読んで関わり合いについて考え、課題について根気強く調べようとしたり友達に分かるように発表しようとしている。

### 3 単元について

#### (1) 児童の実態

##### ① アンケートによる実態 29名

##### <アンケート結果>

		はい	どちらか という はい	どちらか という いいえ	いいえ
1	国語の学習は好きですか。	6	15	7	1
2	班の友達に自分の意見や考えを話すことは好きですか。	7	18	3	1
3	みんなの前で自分の意見や考えを話すことは好きですか。	7	9	11	2
4	友達と話し合いながら学習することは好きですか。	19	6	4	0
5	聞いている人が分かりやすいように、考えて発言していますか。	7	20	2	0
6	話している人を見て、うなずきながら聞いていますか。	7	15	5	2
7	話している人が何を伝えたいか、考えながら聞いていますか。	15	7	7	0

国語の学習に対して7割の児童は前向きだが、3割の児童は苦手意識があることがわかる。話し合いながら学習を進めていくことについては肯定的に捉えている児童が多いが、自分の意見や考えを皆に伝えることに関しては、苦手意識をもっている児童が多い。「恥ずかしい」や「間違えるのがいやだから」「どもってしまう」という理由が多くあった。

また、聞き方に関しても7割の児童が「できる」と答えている。「いいえ」で答えた理由としては、話は聞いてはいるが反応を返していないというのが最も多かった。どのような反応をすることが興味をもって聞いているのかを表現することになるのかを指導していく必要があると考える。また、友達はどのように聞いてもらえたら気持ちよく話すことができるかを考えさせ、相手意識をもって聞くことができるようにしたい。

##### ② 日常の実態

###### 「話すこと」

ノートの記入内容を確認すれば、自分の考えをもち取り組んでいた様子が分かるが、積極的に挙手して自分の考えを発表する児童は全体の2割程度である。また、発表時の声が小さく自分の考えに自信がもてない様子が見られる。一方、全体の前で発表するときよりも班活動やペア活動の方が進んで話したり思ったことを発言したりする様子が見られる。今回原稿を基に3～4人の班で発表し合うことで、自分の考えに自信をもち意欲的に発表できる態度を育てていきたい。

###### 「聞くこと」

静かに最後まで相手の意見を聞ける児童と、最後まで聞かず気になったことを直ぐに話してしまう児童との様子が見られる。自分と違う考えや意見を聞いたときに、「なぜそう考えたのか」を考えようとする児童がいる一方で、全体で話していることを聞き取れずに十分に活動に

参加できない児童もいる。話し手の意図を考え、自分との違いを楽しみながら聞くことの活動に取り組めるような態度を育てていきたい。

## (2) 単元設定の理由

本単元では、「調べたことを工夫してメモする力」「調べたことを整理して発表する力」を付けることを目指している。

メモは自分の決めた観点に沿って集めた資料を分析し、まとめるものである。例を参考にしながら見出しを書いておくことなどのメモの取り方を学習し、調べた事柄をできるだけ要点でメモしていく。

調べたことを発表する際には、初め・中・終わりという構成を意識させる。そのように道筋を立てて話すことで、何を発表者が伝えようとしているのかが聞き手にとって分かりやすくなることを身に付けさせたい。そして、友達の報告を聞くときは、発表の仕方、発表の内容の両方に注意して、質問をしたり感想を伝えたりするように指導していく。また PPT の指導や作成については、カリキュラムマネジメントの総合的な学習の時間と合科で行う。

## (3) 教材の分析

資料「手と心で読む」は、筆者が点字という文字を獲得した体験が語られている。また、誰もがよりよく関わり合うためのコミュニケーション手段として、目の不自由な方への様々な工夫を紹介している。私たちが人やものと関わり合うとき、文字情報がどれほど大切であり、知らず知らずのうちのどれほど依存しているかについて考えるきっかけになると考える。児童には身近な工夫や課題に目を向けさせることで、「関わり合い」ということについて、自分の考えを見つめる好機としたい。

## 4 目指す児童像に迫るための手立て

### 【中学年分科会の目指す児童像】

交流する中で共通点や相違点に着目し、筋道を立てて考えをまとめることができる子

(下線部) は、本時での「話す・聞く」の手立て

### (1) 授業展開・形態の工夫

- ・発表原稿の作成を終えた上で PPT の資料作成を行うことで、要点を絞って分かりやすいスライドが作れるようにする。
- ・高学年の多人数での話し合いにつながるように、今回は 3 人以上のグループで発表会を行う。複数いる聞き手の反応を確かめながら、工夫した発表が行えるようにする。

### (2) 学習活動の工夫

- ・発表練習を似た課題同士で集まりアドバイスし合うことで、発表やスライドの作成に生かせるようにした。
- ・単元導入の際に、児童が見通しをもって意欲的に学習活動に取り組めるように学習計画を提示する。
- ・PPT や文章を書く際には教師がモデルとなる例を提示し、児童がメモの観点や文章の修正、要点を絞ったスライドの作成を行えるようにする。
- ・友達と意見や感想を交流する時間を取り振り返ることで、自分の考えを深められるようにする。

### (3) ICT 機器の活用

- ・話し手が PPT を活用することで資料の提示や発表内容のおおまかな要点が、より相手に伝わりやすくなる考えた。また聞き手としても、内容の見直しや確認がしやすいと考えた。
- ・PPT を活用するため、資料の修正や追加がしやすくなる。
- ・発表練習を動画で撮影し合うことで、自分の発表の仕方が客観的に見れるようにした。

### 6 単元の指導計画 (全15時間)

次	時	各時間の目標	主な学習活動	●指導上の留意点 ◇評価規準 (評価方法)
第一次	1	○「だれもがよりよく関わり合う」ということについて話し合い、本単元のめあてを捉えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「関わり合う」ということについて思ったことや考えたこと、知っていることを話し合う。</li> <li>・単元のめあてを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「関わり合う」ことについて具体的に挙げさせることで、日常的に多くの人と関わり合いながら生きていることに気付かせる。</li> <li>◇「関わり合い」について調べて発表するという単元の学習を理解し、意欲的に取り組もうとしている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">〈主①〉(観察)</p>
	2	○資料「手と心で読む」を読み、知りたいことや確かめたいことを考え、学習課題を設定し、学習計画を立てることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料「手と心で読む」を読み、知りたいことや確かめたいことなどを出し合う。</li> <li>・学習計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●単元名とリード文を再確認し、どんな力を付けるための学習なのかを押さえ、活動のゴールが発表会であることを確認する。</li> <li>◇資料を読み、学習計画を立て、今後の学習の見通しをもっている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">〈主①〉(発言)</p>
第二次	3	○相手意識をもち、「関わり合い」について調べたいことと、その具体的な調査内容を決めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝える相手を確認する。</li> <li>・自分の課題を決める。</li> <li>・決めた課題に即して、具体的な調査内容を決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の課題が設定できない児童には、教科書の例題から選んでよいことを伝える。</li> <li>◇「だれもがよりよく関わり合う」ということについて考えを深めるのにふさわしい課題と、調査内容を設定している。〈主①〉(発言・ノート)</li> </ul>
	4	○自分の調査内容にふさわしい方法で調査活動の計画を立てたり、分かりやすい記録の仕方を考えたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査活動の計画を立てる。</li> <li>・分かりやすいメモの取り方を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●調査時間が3時間であることを確認し、計画的に進められるように促す。</li> <li>◇自分の課題に合った調査方法を考え計画を立てている。(ワークシート)</li> <li>◇分かりやすい記録の仕方を理解している。</li> </ul> <p style="text-align: right;">〈思①〉(発言)</p>

5 ・ 6 ・ 7	○相手や目的を意識しながら、計画に沿って調査活動を行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手と目的を確認する。</li> <li>・調査活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎時間、どこまで活動が進んでいるかを把握し、必要な支援を行えるようにする。</li> <li>◇「よりよく関わり合う」ということについての考えを深めるための発表会をするという意識をもちながら、計画に沿って調査し、分かりやすく記録しているか。</li> </ul> <p>〈思①〉(ワークシート)</p>
8	○調べたいことが明確になるように、記録メモを分類・整理し、調べたことや集めた情報から新たな事実気付いたり情報に軽重を付けたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分類・整理の仕方を知り、分類・整理を行う。</li> <li>・自分の課題にとって重要な情報とそうでない情報とを判断して、伝えたいことを明らかにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●分類するには、観点が必要であること、整理するには記録メモに書かれた内容から必要なことを拾い出してまとめていくことなどを押さえる。</li> <li>◇観点を決めて記録メモを分類・整理し、調べたことや集めた情報から新たな事実気付いたり、情報に軽重を付けたりして、伝えたいことをより具体的にしている。</li> </ul> <p>〈思②〉(ノート)</p>
9 ・ 10	○調査したことから、伝えたいことをはっきりさせ、構成を考えて原稿を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書をもとに発表の工夫点を考える。</li> <li>・自分の課題についておおまかな構成を考え、構成に沿って発表原稿を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教科書の例から、話し方のよさ、構成のよさ、表現のよさ、内容のよさなど複数の観点でよさを見つけさせる。</li> <li>◇伝えたいことの内容を考慮し、構成を工夫して発表原稿を書いている。</li> </ul> <p>〈知①〉(発表原稿)</p>
11	○分かりやすい発表にするために、必要なスライドを考え、PPTを作成することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表するときに必要なスライドの留意点を考える。</li> <li>・PPTを作成する。</li> </ul> <p>※「総合的な学習の時間」でPPT作成の時間を3時間とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教師の用意したPPTをもとに、工夫を探すようにする。</li> <li>◇発表に必要なスライドを考え、分かりやすいPPTを作成している</li> </ul> <p>〈思②〉(PPT)</p>
12 ・ 13	○言葉の抑揚や強弱、間の取り方に気を付けて、発表の練習をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで聞き合い、アドバイスを合せてよりよい発表にする。</li> <li>・アドバイスを受けた所の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●間を取り聞き手を見るなどの工夫を取り入れさせ、聞き手を意識した発表になるように促す。</li> <li>●発表会を行う際に、されるであろう質問を予想させる。</li> <li>◇伝えたい内容に応じて、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫して練習している。</li> </ul> <p>〈思③④〉(ワークシート・観察)</p>

第三次	14 (本時)	○友達の発表を、メモを取りながら聞き、感想をもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し方と聞き方のポイントを確認する。</li> <li>・友達の発表を自分の考えを比べながら聞き合い、感想を交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●聞き手を意識して視線を配るなど、自分のめあてを意識して緊張感をもって発表に取り組めるようにする。</li> <li>◇聞き手は、メモを取りながら良い点を見つけたり自分の考えと比べて感想をもったりしている。 〈思⑤〉(ワークシート・観察)</li> </ul>
	15	○調査活動や発表会を通して「だれもが関わり合う」ことについて考え、単元全体を振り返ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査活動や発表会を通して「だれもが関わり合う」ことについて考える。</li> <li>・単元を振り返り、まとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の調べたことについて具体的に書くよう助言したり、発表会で共感した友達の意見を書くよう助言したりする。</li> <li>◇この単元で身についた力を五つの視点で振り返っている。〈主①〉(ノート)</li> </ul>

8 本時の指導 (14/15)

(1) ねらい

- ・友達の発表のメモを取りながら聞き、感想をもつことができる。

(2) 展開

	○主な学習活動	●指導上の留意点	◇評価
導入	○本時のめあてを確認する。		
	発表を聞き、自分の考えと比べて感想を伝えよう。		
導入	○話し方と聞き方のポイントを確認する。	●話し方のポイントは発表練習の時にも扱っているため、予め掲示しておく。	
	○聞き方のめあてをもつ。	●聞き方のポイントをもとにめあてを決めさせる。	
展開	○発表会の流れを確認して、発表会を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・4人グループ(5班)</li> <li>・3人グループ(3班)</li> <li>・一人が発表しているとき、残りの人は聞き手となる。</li> <li>・聞き手は、メモを取りながら聞き、発表者の良かった所と自分の考えと比べての感想や質問を伝える。</li> <li>・5分ごとに発表者を交代して行う。</li> </ul>	●聞き手を意識して視線を配るなど、話し方のポイントを意識して発表に取り組めるようにする。 ●1回目と2回目の発表の終了時に、よい話し方や聞き方をしている児童を取り出しモデルとして全体に紹介する。	◇聞き手は、メモを取りながら発表者のよい点を見つけたり自分の考えと比べて感想をもったりしている。 (ワークシート・観察)
まとめ	○学習の自己紹介と振り返りを行い、次時の見通しをもつ。	●発表会を通して「だれもがよりよく関わり合う」ことへの自分の考えや聞き方について意見を共有させる。	

だれもが関わり合えるように  
めあて「だれもがよりよく関わり合う」ことの  
発表会をしよう

○聞き方のポイント

- ・メモをしながら聞く。
- ・事実と考えを区別しながら聞く。
- ・うなづくなどの反応を示す。
- ・自分の考えと比べながら聞く。
- ・内容面のよさと、話し方のよさ。

〈発表の流れ〉

話し手

- ①発表する。
- ②質問に答える。

聞き手

- ①メモをとる。
- ②質問を言う。
- ③感想を伝える。